2012 年度 J-CaJa プロジェクト 活動報告

作成日：2013 年 1 月 20 日

報告者：中川 歩香

➢ プロジェクトについて（概要）

- メンバー: 15 名（院生 1 名、4 回生 10 名、3 回生 4 名）

  院生: 平川 成一

  4 回生: 江口 紗代子、角谷 奈美、末兼 藍子、曽利 尭史
  大福 聡平、中川 歩香、肥田 紗加、増田 珠水
  安富 かなえ、若松 奈緒子

  3 回生: 宇佐 望月、浦野 友欣、原 広輝、松本 未夢

- どういった理由でこのプロジェクトが発足したのか

カンボジアでは長く続いた内戦やポル・ポトの悪政により貧困問題や教育制度の崩壊が起こり、その社会的影響が今なお根強く残っている。本プロジェクトは、カンボジアの NGO や大学、そして日本国内の団体と連携しながら、カンボジアの教育問題の解決に取り組むために発足した。カンボジアの抱える問題や NGO の活動を広めることで NGO をサポートし、多くの人が貧困や教育の課題の解決策について考えることを目指している。

- カンボジア現地での連携団体

パニャサストラ大学

プノンペンにメインキャンパスを置き、カンボジア各地に計 7 つのキャンパスを持つ私立大学。2011 年よりシェムリアップ校と連携して活動を行っている。

EPS (Education Population Support)

カンボジアの内務省に認可された NGO 団体。現在、子どもが教育を受けるための奨学プログラムと、貧しい家族を農業で支援するプログラム、といった 2 つのプログラムをシェムリアップ州で行っている。

➢ 活動目的

「小学生が学校を辞めなくてもいいように、カンボジアの教育環境を整える」ことを活動目的として掲げている。

➢ 活動内容

- 年間のスケジュール

  ※別紙参照

- 活動について

1. カンボジア渡航・現地調査

✧ *EPS との図書活動*

2 度のカンボジア渡航を通して、「小学生が学校を辞めなくてもいいように、カンボジアの教育環境を整える」という活動目的達成のために、シェムリアップ州 Kiri Meanun 小学校と Omiya 小学校で図書活動を行なった。

1 度目の渡航では、3 日間小学校の教員へ図書館運営方法や絵本の効果、図書を使った授業実践の方法に関する図書研修を実施した後、図書館開設セレモニーとともに、日本語及びクメール語の絵本約 350 冊を贈呈した。同時に、児童が図書に関心を持つことを目的とし、栞作りワークショップを行なった。

2 度目の渡航では、Kiri Meanun 小学校でのインタビューによるフォローアップ調査と絵本作りワークショップ、そして Omiya 小学校と周辺地域での図書導入を視野に入れた現地調査を実施した。Kiri Meanun 小学校で図書ブースの運営・管理・利用状況に対して調査を行なった結果、教員が適切に図書を管理・活用しており、児童や教員、地域住民による図書利用が活発に行われていた。また Omiya 小学校周辺では調査に加え、農村部の実生活を知るために 1 日農村生活体験を行ない、田植えや手編みカゴ作成の手伝いなどをした。

✧ *パニャサストラ大学生との交流*

パニャサストラ大学の講義聴講や大学生とのディスカッション、さらにホームステイやアンコールワット遺跡群への社会見学を通して彼らの生活・文化を学び、同時に交友を深めた。そうすることで、本プロジェクトメンバーはカンボジアで活動を行なうための知識やカンボジア人的視点を身に付けた。

✧ *NGO・小学校訪問*

現地で NGO を訪問することにより、現在カンボジアにある社会問題やニーズ、またそれらへの取り組みについて学び、本プロジェクトの目的達成のための参考とした。また、都市部と農村部、そして公立と私立の小学校への訪問を通して、カンボジアの小学校の現状や格差問題を学んだ。

2. パニャサストラ大学の学生受け入れプログラム

パニャサストラ大学の学生が来日する際に日本での活動を企画、運営した。小学校・高校訪問や京都限界集落での生活体験、エネルギー問題に関するプロジェクト活動を行ない、活動を通してパニャサストラ大学の学生は日本の社会問題に

ついて学び、考えた。また活動の折りに本プロジェクトメンバーや他の関西大学生とディスカッションして個々の考えを共有する機会、そしてホームステイを実施することで日本の文化に触れてもらう機会も設けた。

3. 報告会への参加

外部の報告会に参加することで自分たちの活動やカンボジアという国について広く伝え、他者のカンボジアへの興味を喚起したり、国際協力や同類のプロジェクト活動に携わる人との繋がりを構築した。また、報告会への準備を通して本プロジェクトメンバーが活動の振り返りや見直しを行ない、発表後に第三者から活動に対する意見やフィードバックを得た。

4. 勉強会、ワークショップの実施

本プロジェクトメンバーが活動をするにあたり必要となる知識やスキルを獲得するために、ミーティング内で国際協力や支援についての勉強会を行なったり、他プロジェクトと合同でディベートに関するワークショップを実施したりした。

5. 外部イベントへの参加

京都外国語大学の学生と連携して ASIAN PUJA に参加し、そこでフリーマーケットやカンボジア雑貨の販売、インドの子どもたちとのスカイプ交流、新聞紙や広告を使ったエコバッグ作り、そして民族衣装の試着・撮影会を行なった。カンボジアで購入した雑貨を販売し、本プロジェクトを紹介したチラシを渡すことで、イベントの参加者に活動とカンボジアの現状を広めた。

6. 日本とカンボジアの小学校交流学習

EPS の協力を得て、ミューズ初等部とワット・サバイ小学校の児童がスカイプ交流を行なった。ミューズ初等部の 3 年生はカンボジアについての調べ学習を行なっており、今回の交流会でカンボジアの児童の生の姿を見ることができた。

また、パニャサストラ大学の学生の協力を得て、奥坂小学校とコック・チャン小学校が絵本の交換を行なった。

7. 広報活動

本プロジェクトは国内外の他団体と連携して活動が成り立っているため、広く他者に活動を伝えることを大切にしている。本年度はウェブページの定期的更新やウェブページと SNS(facebook、twitter)の連携、または外部イベントや報告会への参加を積極的に行ない、広報活動に力を入れた。

➢ 活動の成果

1. 今後のカンボジアでの教育支援活動を有意義なものにするため、プロジェクトメンバーが年間の活動を通してカンボジアの歴史、文化、社会的背景および国際協力の基礎について学んだ。
2. パニャサストラ大学生との活動やディスカッションを通し、カンボジアの教育の現状や小学校のニーズを知ると同時に、今後の連携に向けて関係性を強化した。
3. Kiri Meanun 小学校や Omiya 小学校での図書活動を通し、図書が与える児童や教員、地域住民への影響に新しい発見があり、今後の活動において考慮しなければならない課題を得ることができた。

➢ 課題

1. 目的を達成するための具体的ミッションを掲げる
   - ✧ 図書を導入することで児童や地域にどのような効果があるのか、また目的に対してこの活動がどれほど影響を与えることが出来るのかという点を評価することが困難であるため、活動目的に沿う具体的ミッションを掲げる必要がある。
2. EPS との連携
   - ✧ 図書活動の継続、発展のために現在 EPS は欠かせない存在であるが、本プロジェクトに図書活動のための活動資金源が確立していないことや EPS 自体の存続が危ぶまれていることを考慮すると、他団体との連携や他の活動を視野に入れる必要がある。
3. メンバーの英語力不足
   - ✧ 海外との連携が必須である本プロジェクトにとって、コミュニケーションツールとしての英語は大変重要である。それにも関わらず、メンバーのほとんどが連携する大学生または NGO との英語でのコミュニケーションに苦戦している。連携先とのよりよい関係の構築と活動に対するより高度な話し合いをするためにも、メンバーの一人一人が普段から意識して英語を身につける必要がある。
4. メンバーの知識・スキル不足
   - ✧ カンボジアの教育問題に取り組む以上、メンバーがカンボジアという国や教育、国際協力について深い知識を持っていなければならない。また、連携先と英語でディスカッションを行なったり、小学校でワークショップを行なったりするためのファシリテーションスキルも必要である。メンバーの各種知識・スキルの底上げのために、ワークショップや勉強会を定期的に開催する必要がある。
5. プロジェクト内の情報共有不足
   - ✧ メンバー内での情報不足により、活動に致命的な問題が起こったり、メンバー内や外部との連携において誤解が生じたりした。そのため、報告・連絡・相談をメンバー内及び連携団体と密に行なう必要がある。

J-CaJa プロジェクト 2012 年 年間スケジュール

月	活動内容
1	ミーティング
	カンボジア渡航に向けて活動全体の目標を定め、活動内容やスケジュールについての話し合いを行なった。
2	ミーティング
	カンボジア渡航に向けて、現地での具体的な活動内容やスケジュールについてパニャサストラ大学の教員および EPS と連絡を取り合いながら具体的な内容を詰めていった。
	カンボジア渡航
	本プロジェクトメンバー14 名がカンボジア・シェムリアップへ渡航し、現地調査と図書活動を行なった。
3	ミーティング
	カンボジア渡航の振り返りを行なった。同時に、活動や調査結果に関する報告書の作成に取り掛かった。
4	ミーティング
	カンボジア渡航の報告書の完成と合同報告会に向けての準備を行なった。
	合同報告会
	関西大学総合情報学部フィリピン ICT 教育支援プロジェクトや京都外国語大学インドプロジェクトと合同で報告会を行なった。
5	ミーティング
	活動目的の設定と、EPS(図書活動)・KU(国内での活動)・PUC(パニャサストラ大学との連携)の 3 つのグループに分かれての活動を開始した。同時に、次回のカンボジア渡航に向けて国際協力についての勉強会を実施した。
6	ミーティング
	ASIAN PUJA に向けて、4 つのグループ(物販班、スカイプ班、エコバッグ班、民族衣装班)に分かれて京都外国語大学の学生と連携しながら準備を進めた。また、カンボジア渡航に向けて活動目的、活動内容、スケジュールについて話し合ったり、勉強会を行なったりした。
7	ミーティング
	ASIAN PUJA に向けての準備と、カンボジア渡航に向けて活動内容やスケジュールの決定をした。

月	活動内容
7	**合同ワークショップ**
	Meet The Globe プロジェクトと合同で、ディベートに関するワークショップを企画、実施した。
	ASIAN PUJA
	NPO 法人アジア子供支援フジワーク基金主催のイベント ASIAN PUJA に、京都外国語大学の学生と連携して参加した。
8	**ミーティング**
	カンボジア渡航前は活動やスケジュールの最終調整を行なった。帰国後には活動の振り返りや反省を行なった。
	カンボジア渡航
	本プロジェクトメンバー9 名がカンボジア・シェムリアップへ渡航し、現地調査を行なった。
9	**ミーティング**
	カンボジア渡航の振り返りを行なった。同時に、活動や調査結果に関する報告書の作成に取り掛かった。
10	**ミーティング**
	カンボジア渡航の報告書の完成と 3 回生を中心にプロジェクト合同報告会に向けての準備に取り掛かった。また、パニャサストラ大学の学生受け入れプログラムに向けて目的設定を行なった。
	プロジェクト合同報告会
	関西大学総合情報研究室に所属するプロジェクトの合同報告会に参加した。
	日本とカンボジアの小学校交流学習
	EPS の協力を得て、ミューズ初等部とワット・サバイ小学校の児童をスカイプで繋げた。
11	**ミーティング**
	パニャサストラ大学の学生受け入れプログラムに向けて、活動ごとにチームに分かれて具体的な活動内容とスケジュールを詰めていった。
12	**ミーティング**
	パニャサストラ大学の学生受け入れプログラム前は受け入れ態勢を万全にし、プログラム後は反省と振り返りを行なった。
	パニャサストラ大学の学生受け入れプログラム
	パニャサストラ大学の学生 10 名および教員 1 名を日本で受け入れ、共に日本の社会問題について体験的に学んだ。